

# 内装改修マニュアル（案）

日本建築仕上材工業会  
内装仕上塗材部会技術委員会

## 内装改修マニュアル（案）

### 目 次

1. 前書き .....	1
2. 内装改修のフローチャート .....	2
3. 改修用仕上塗材の選定 .....	3
3.1 内装仕上塗材の種類・呼び名・通称 .....	3
3.2 既存内装仕上材の見分け方 .....	4
3.3 既存内装仕上材と改修用仕上塗材の適合性 .....	5
3.4 改修目的に合った内装仕上塗材の選定 .....	6
4. 既存内装仕上材の劣化調査 .....	7
5. 既存仕上材に対する塗り替え方法 .....	8
5.1 既存内装仕上材が「塗料」の場合の改修方法 .....	8
5.2 既存内装仕上材が「しっくい（既調合）」の場合の改修方法 .....	10
5.3 既存内装仕上材が「繊維壁」の場合の改修方法 .....	12
5.4 既存内装仕上材が水溶性樹脂系の「京壁・じゅらく・けい藻土塗材」（内装薄塗材 W） の場合の改修方法 .....	14
5.5 既存内装仕上材が合成樹脂エマルジョン系の「京壁・じゅらく・けい藻土塗材」（内 装薄（厚）塗材 E）の場合の改修方法 .....	16
5.6 既存内装仕上材がセメント系の「京壁・じゅらく・けい藻土塗材」（内装薄（厚）塗 材 C）の場合の改修方法 .....	18
5.7 既存内装仕上材が「せっこうプラスター」の場合の改修方法 .....	20
5.8 既存内装仕上材が「塩ビ壁紙」の場合の改修方法 .....	22

## 1. 前書き

本マニュアル（案）は、内装壁面のせっこうボード下地に施工されている仕上材の改修に活用されることを目的として、日本建築仕上材工業会内装仕上塗材部会技術委員会において作成したものである。既存の仕上材としては、塗料、しっくい（既調合）、けい藻土塗材、繊維壁、京壁、じゅらく、せっこうプラスターといった仕上塗材および塩ビ壁紙（クロス）を想定している。既存の仕上塗材の詳細が不明な場合は試験塗りをおこない、改修用の仕上塗材との相性を十分に確認することを推奨する。

なお、本マニュアル（案）で取り扱う仕様は一般的なものであるため、実際の施工方法の詳細については施工する仕上塗材の製造所に問い合わせること。

### <改修の目的>

#### a. 劣化の改修

経時の変化による表面劣化、退色、物理的影響によるへこみ、えぐれ、チリ切れおよび外的要因による汚れ・カビなどの補修を行い、改修によってこれらの劣化状態から回復させる。

#### b. 意匠性の変更

色彩や模様替えを行い、改修によってライフスタイルに合わせた室内住環境を創る。

#### c. 素材の変更と機能性・安全性の確保

質の高い室内住環境を創るための、機能性を持った仕上塗材への改修あるいは素材に拘った改修によって、快適な環境を創る。機能性の要求性能と仕上塗材の性能を表 1.1 にまとめた。

表 1.1 仕上塗材の機能性

仕上塗材		仕上塗材の性能								
		調湿性	VOC 吸着	低 VOC	消臭	抗菌・ 防カビ <sup>1)</sup>	汚れ 除去	防火 認定	模様 付け	色彩
要求性能	調湿機能	○								
	環境配慮		○	○	○	○				
	防火性							○		
	衛生					○	○			
	意匠								○	○

要求性能に対して、○印のついた性能を保持する仕上塗材を選定することが望ましい。

（例）衛生面を要求する場合は？

→ 「抗菌・防カビ」や「汚れ除去」性能などがある仕上塗材を選定する。

### <内装制限について>

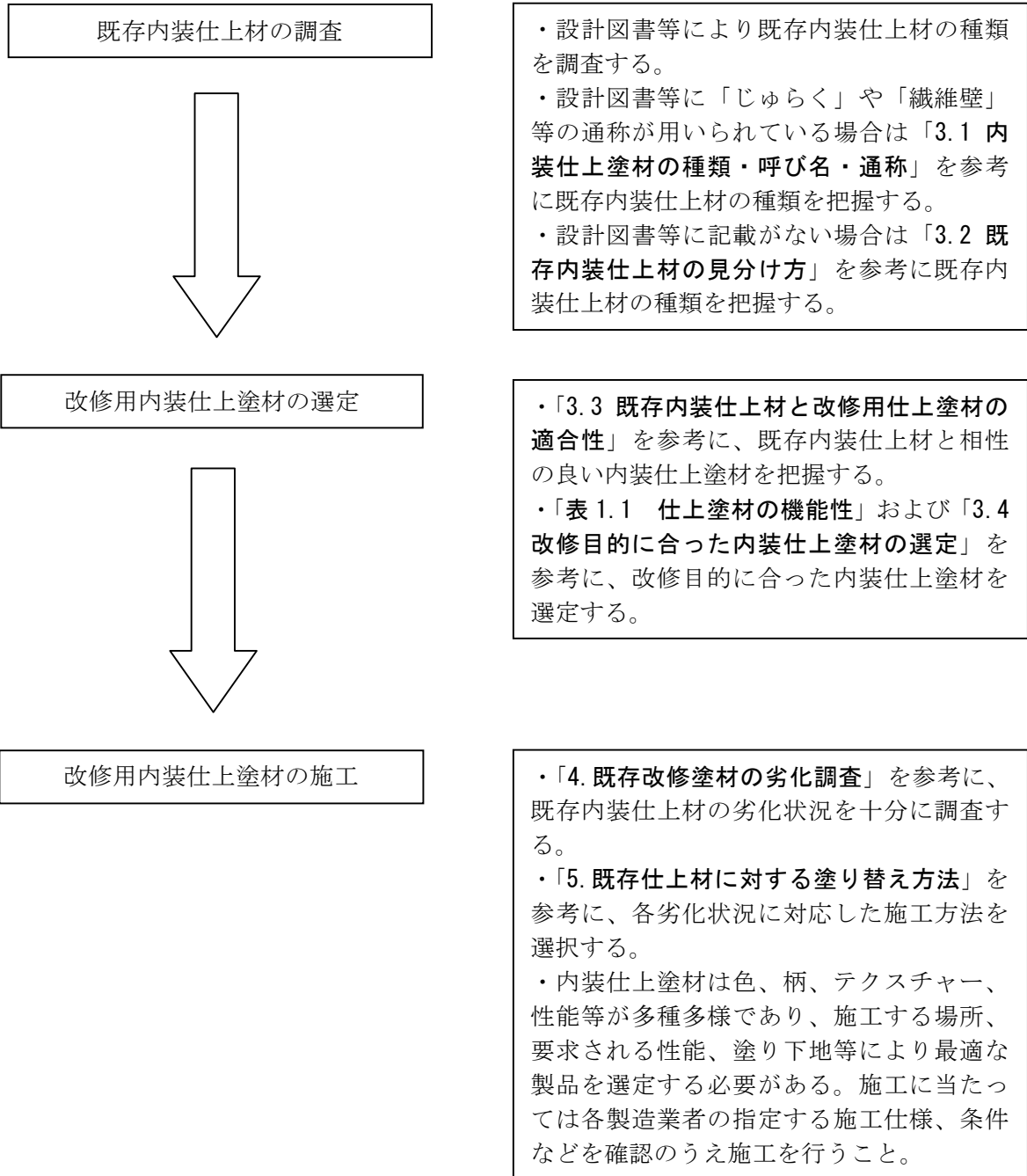
建築基準法では、初期の火災の成長を遅延させ、火災の初期における安全避難を実現させるとともに、火災が成長しても、煙の発生を少なくし、避難を妨げないように、特定の対象建築物について内装材料の種類を制限している。

これらの建築物の壁・天井の屋内に面する部分の仕上材には、建築物の用途や規模に応じて、不燃材料・準不燃材料・難燃材料等の防火材料を使用しなければならないが、改修時には改修用仕上材だけではなく既存塗膜を含めた仕様による個別認定が必要となる。

防火材料等の指定がある建築物に対する改修用仕上材を選定する際には建築基準法に従うこと。

## 2. 内装改修のフローチャート

内装改修のフローチャートと各章との関わりを以下に示す。



### 3. 改修用仕上塗材の選定

#### 3.1 内装仕上塗材の種類・呼び名・通称

一般に、内装仕上塗材は使用される骨材等により「じゅらく」、「繊維壁」、「けい藻土塗材」等の通称で呼ばれることが多い。しかし、改修目的に合った適切な内装仕上塗材を選定するためには、既存仕上材および改修用仕上塗材の樹脂やセメント等の結合材による分類を把握する必要がある。表 3.1 に内装仕上塗材の種類・呼び名・通称の対応を示す。また、参考のため、巻末に JIS A 6909（建築用仕上塗材）の「表 1-仕上塗材の種類及び呼び名」の抜粋を付録として添付する。

表 3.1 内装仕上塗材の種類・呼び名・通称

種類	呼び名	通称
内装合成樹脂エマルジョン系薄付け仕上塗材	内装薄塗材 E	じゅらく、けい藻土塗材
内装セメント系薄付け仕上塗材	内装薄塗材 C	セメントリシン
内装消石灰・ドロマイトプラスター系薄付け仕上塗材	内装薄塗材 L	しっくい、けい藻土塗材
内装水溶性樹脂系薄付け仕上塗材	内装薄塗材 W	繊維壁、京壁、けい藻土塗材、じゅらく
内装合成樹脂エマルジョン系厚付け仕上塗材	内装厚塗材 E	樹脂スタッコ、アクリルスタッコ、けい藻土塗材
内装セメント系厚付け仕上塗材	内装厚塗材 C	セメントスタッコ、けい藻土塗材
内装消石灰・ドロマイトプラスター系厚付け仕上塗材	内装厚塗材 L	しっくい、けい藻土塗材
内装せっこう系厚付け仕上塗材	内装厚塗材 G	せっこうプラスター、けい藻土塗材

### 3.2 既存内装仕上材の見分け方

内装仕上塗材の塗り替えを行うに際し、既存内装仕上材を見極めることは、改修用仕上塗材との相性を確認する上で重要となる。設計図書を確認し、「3.1 内装仕上塗材の種類・呼び名・呼称」のいずれに該当するか確認する。

表 3.2 に示す方法は、設計図書による確認が出来ない場合の簡易の見分け方である。ただし、以下の分類に該当しない場合や、複数の結合材を使用している場合などは、必ずしも該当しない場合がある。

表 3.2 既存内装仕上材の見分け方

結合材の種類		合成樹脂エマルジョン系		水性樹脂系	セメント・石灰・ドロマイトプラスター（樹脂を含む場合あり）				せつこう	
		E		W	C, L				G	
呼び名		内装薄塗材E	内装厚塗材E	内装薄塗材W	内装薄塗材C	内装厚塗材C	内装薄塗材L	内装厚塗材L	内装厚塗材G	
種類		内装合成樹脂エマルジョン系薄付け仕上塗材	内装合成樹脂エマルジョン系厚付け仕上塗材	内装水性樹脂系薄付け仕上塗材	内装セメント系薄付け仕上塗材	内装セメント系厚付け仕上塗材	内装消石灰・ドロマイトプラスター系薄付け仕上塗材	内装消石灰・ドロマイトプラスター系厚付け仕上塗材	内装せつこう系厚付け仕上塗材	
通称		じゅらく、けい藻土塗材	樹脂スタッコ、アクリルスタッコ、けい藻土塗材	繊維壁、京壁、けい藻土塗材、じゅらく	セメントリシン	セメントスタッコ、けい藻土塗材	しっくい、けい藻土塗材	しっくい、けい藻土塗材	せつこうプラスター、けい藻土塗材	
見分け方	色	濃・中・淡	濃中淡	濃中淡	濃中淡	中淡	中淡	中淡	中淡	中淡
	パターン	主たる仕上の形状	砂壁状 ゆず肌状 さざ波状	スタッコ状 かき落とし状 平たん状	梨子地状 繊維壁状	砂壁状	スタッコ状 かき落とし状 平たん状	平たん状 ゆず肌状 さざ波状	スタッコ状 かき落とし状 平たん状	スタッコ状 かき落とし状 平たん状
	固さ	爪が立つ	×	×	○	×	×	×	×	×
	耐水性	水でふやける	×	×	○	×	×	×	×	×
	燃焼	燃える	○	○	○	×	×	×	×	×
pH	アルカリ性	×	×	×	○	○	○	○	×	

○ : 該当する      △ : 該当する物も有る      × : 一般的には該当しない

色 : 京壁やじゅらくでは濃色も有るが、その他は淡色が多い。

パターン : 合成樹脂エマルジョン系は薄塗りであっても鰻波をつけたパターンや大きな骨材を転がしたパターン等で凹凸を付与できる。また、消石灰やドロマイトプラスター系の塗材は厚塗りであっても平滑に仕上げることが多い。

固さ : 水性樹脂系は硬化した後でも爪で跡がつく程度に柔らかいものが多い。

耐水性 : 水性樹脂系は十分に水を掛けた後に数分が経つと削れやすくなるものが多い。

燃焼 : 合成樹脂エマルジョン系および水性樹脂系は火であぶると燃焼するものが多い。

pH : セメント、石灰およびドロマイトプラスターはアルカリ性であることが多いため、水を含んだ脱脂綿を押し当てた後、リトマス試験紙でアルカリ性を確認することができる。ただし、施工から十分な時間が経過した仕上塗材は表面が中性化しているため、仕上塗材を少量採取し粉碎したものを水に攪拌してpHを測定する必要がある。

### 3.3 既存内装仕上材と改修用仕上塗材の適合性

改修目的に合った内装仕上塗材を選定するために、既存内装仕上材と相性の良い内装仕上塗材を表 3.3 に示す。

表 3.3 既存塗膜と改修塗材との適合表

既存塗膜		改修塗材											
		内装薄塗材 E	内装薄塗材 C	内装薄塗材 L		内装薄塗材 W		内装厚塗材 E	内装厚塗材 C	内装厚塗材 L		内装厚塗材 G	
				タイプ I (※1)	タイプ II (※2)	タイプ III (※3)	タイプ IV (※4)			タイプ I (※1)	タイプ II (※2)		
塗料	合成樹脂エマルジョンペイント つや有合成樹脂エマルジョンペイント	○	×	△	○	×	○	○	×	×	△	△	
仕上塗材	内装薄塗材 E	○	×	△	○	○	○	○	×	△	○	○	
	内装薄塗材 C	○	○	○	○	▲	▲	○	○	○	○	○	
	内装薄塗材 L	タイプ I (※1)	○	×	○	○	▲	▲	×	×	○	○	△
		タイプ II (※2)	○	×	○	○	▲	▲	○	×	○	○	△
	内装薄塗材 W	タイプ III (※3)	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	△
		タイプ IV (※4)	○	×	▲	▲	○	○	○	×	▲	▲	△
	内装厚塗材 E	○	×	△	○	○	○	○	×	○	○	○	
	内装厚塗材 C	○	○	○	○	▲	▲	○	○	○	○	○	
内装厚塗材 L	タイプ I (※1)	○	×	○	○	▲	▲	×	×	○	○	△	
	タイプ II (※2)	○	×	○	○	▲	▲	○	○	○	○	△	
内装厚塗材 G	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○	○		
壁紙	塩化ビニル樹脂系壁紙	○	×	×	△	×	○	×	×	×	×	△	

○：適用可、△：条件付（製造所指定の専用下塗材を用いる場合に限る）

▲：条件付（耐アルカリ性を有する内装薄塗材 W に限る） ×：不適

(※1)：タイプ I は、ポリマーディスパージョンまたは再乳化形粉末樹脂を混合していないもの

(※2)：タイプ II は、ポリマーディスパージョンまたは再乳化形粉末樹脂を混合したもの

(※3)：タイプ III は、合成樹脂エマルジョンまたは再乳化形粉末樹脂を混合していないもの

(※4)：タイプ IV は、合成樹脂エマルジョンまたは再乳化形粉末樹脂を混合したもの

### 3.4 改修目的に合った内装仕上塗材の選定

内装仕上塗材には様々な種類があり、それぞれが特徴を持っている。代表的な例を表 3.4 に示す。

これらの内装仕上塗材の中から改修の目的に合った性能を有するものを選定する。

表 3.4 内装仕上塗材の特徴

<p><b>塗料系</b> 調湿性 消臭性 天然素材 模様 色彩 手軽</p> <p>主に美装性、下地の保護、特殊機能の付与等を目的として、様々な物に使用される。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>手軽に塗れる</li> <li>色、艶のバリエーションが豊富</li> <li>物の形・厚さ・重量に関係無く仕上げられる</li> <li>色々な部屋で用途に合わせて演出できる</li> <li>塗り替えによる塗面の長寿命化</li> </ul>
<p><b>せっこう系</b> 調湿性 消臭性 天然素材 模様 色彩 手軽</p> <p>強度、耐火性能、吸放湿性能など優れた特徴を持つ天然素材であり、重厚で温かみのある風合い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>寸法安定性に優れ強度があり、壁の耐久性を向上させる</li> <li>火に強く、火災発生時の延焼を防止する</li> <li>せっこうは硬化が早いいため、リフォームに適している</li> </ul>
<p><b>意匠系</b> 調湿性 消臭性 天然素材 模様 色彩 手軽</p> <p>立体的な模様と色の組み合わせが出来る、自由度の高い塗り壁。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>吹付け、ローラー塗り、こて塗りなどで、多彩な表現が可能</li> <li>多数のカラーが選択できる</li> <li>天然素材との組み合わせなどで、和風、洋風などの様々な意匠が表現できる</li> </ul>
<p><b>珪藻土系</b> 調湿性 消臭性 天然素材 模様 色彩 手軽</p> <p>けい藻土は珪藻が化石化したもので、多孔質構造を持った天然鉱物である。塗り壁の原料として活用することで吸放湿性、脱臭性、断熱性などの高機能を発揮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>室内の湿度を一定に保とうとする調湿機能</li> <li>悪臭やホルムアルデヒドなどの VOC を吸着</li> <li>多孔質構造により、吸音性を発揮する</li> <li>無機鉱物であり、耐火性に優れている</li> </ul>
<p><b>しゅくい系</b> 調湿性 消臭性 天然素材 模様 色彩 手軽</p> <p>天然素材である消石灰を主成分とし、我国の気候風土に馴染みに優しい塗り壁材料である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>湿度を調整し、結露によるカビやダニを防止</li> <li>悪臭やホルムアルデヒドなどの VOC を吸着</li> <li>静電気が発生せず壁紙よりも汚れにくい</li> <li>有害な物質が含まれず、環境に優しい材料</li> <li>アルカリ性で、抗菌作用が長期間持続する</li> </ul>

調湿性	湿度を調節する効果がある	模様	大部分が平滑な仕上がり ゆず肌やタイル模様などもある
消臭性	室内の臭いを低減する効果がある	色彩	色の数が豊富である
天然素材	天然素材を利用している	色彩	淡彩色がメインで、色の数は少ない
模様	デザイン性のある仕上がり	手軽	工事が比較的簡単である



#### 4. 既存内装仕上材の劣化調査

表 4.1 を参考に、既存内装仕上材の劣化状態を図 4.1 のフローに基づいて調査を進める。

表 4.1 既存内装仕上材の調査項目

種類	調査項目	
内装仕上材	内装薄塗材E 内装薄塗材W 内装厚塗材E	チリの有無、強度の有無、汚れ（ヤニ、アク、シミ）、チリ切れ・浮き・膨れ、カビ・錆の有無、へこみ・えぐれ
	内装薄塗材L 内装厚塗材L 内装厚塗材G 内装薄塗材C 内装厚塗材C	チリの有無、強度の有無、汚れ（ヤニ、アク、シミ）、チリ切れ・浮き、カビ・錆の有無、へこみ・えぐれ
	塗料	強度の有無、汚れ（ヤニ、アク、シミ）、チリ切れ、膨れ、カビ・錆の有無、へこみ・えぐれ
	壁紙（クロス）	接着状態、汚れ（ヤニ、アク、シミ）、剥がれ、膨れ、目地切れ、カビの有無

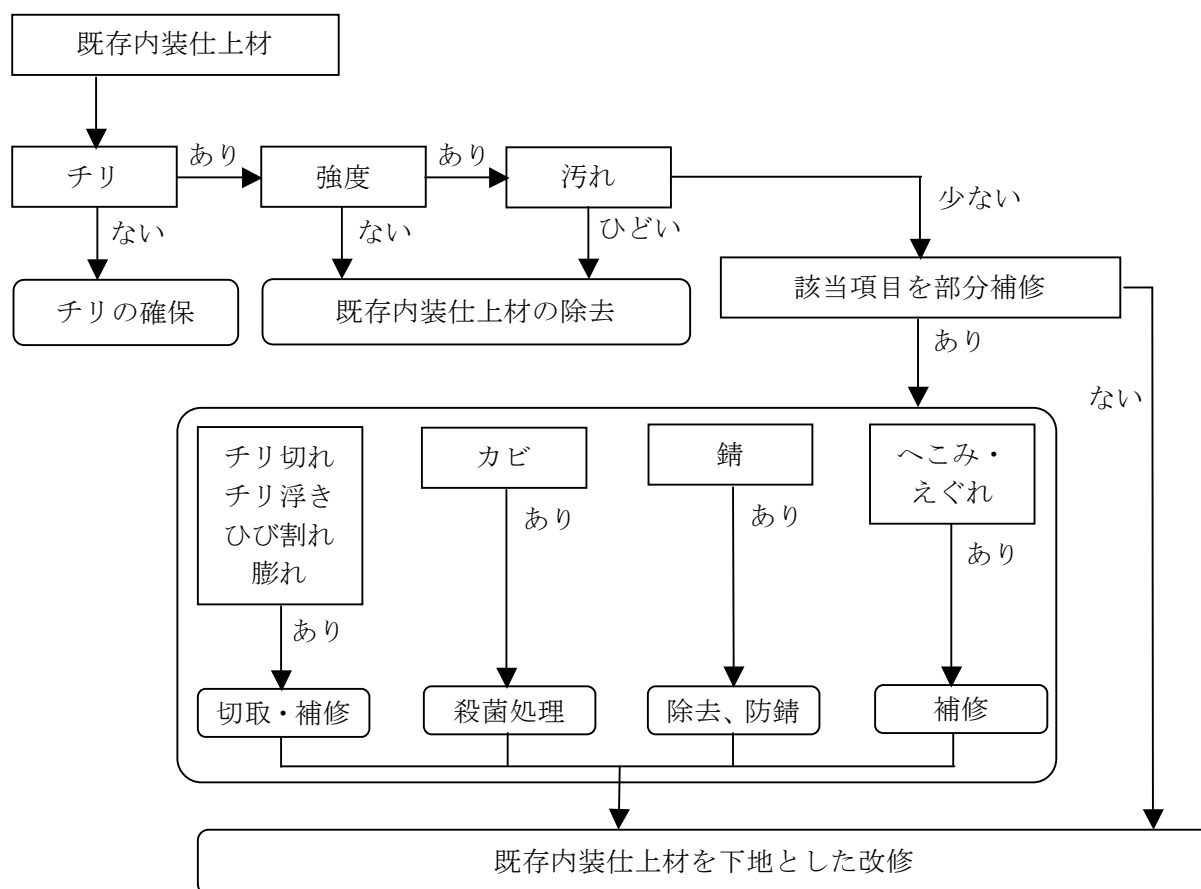


図 4.1 既存内装仕上材の劣化調査フロー

## 5. 既存内装仕上材に対する塗り替え方法

以下に、既存内装仕上材の劣化状況および処理方法、適用可能な仕上材の種類および注意点をまとめた。

### 5.1 既存内装仕上材が「塗料」の場合の改修方法

表 5.1 既存内装仕上材が「塗料」の場合の改修方法

1. 既存内装仕上材の種類	塗料																
2. 既存内装仕上材の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には平滑な仕上りである。模様仕上りの場合は、中塗材を使用して凹凸を付与させる。</li> <li>・内装の場合はほとんどがつや消しの塗料が採用されている。汚れの気になる厨房や学校の実験室などには、つや有りの塗料が採用される場合もある。</li> <li>・塗膜の厚さが薄いため、チリがほとんど無い、もしくは、塗膜層を除去してもチリが確保できない場合がある。</li> </ul>																
3. 状況と処理方法	<table border="0"> <tr> <td>状況：</td> <td>処理方法</td> </tr> <tr> <td>① チリの有無・・・・・・・・・・・・・・・・</td> <td>処理方法 5.1.1 参照</td> </tr> <tr> <td>② 汚れ（ヤニ・アク・シミ・ほこり）・・</td> <td>処理方法 5.1.2 参照</td> </tr> <tr> <td>③ カビ・・・・・・・・・・・・・・・・</td> <td>処理方法 5.1.3 参照</td> </tr> <tr> <td>④ 摩耗（へこみ・えぐれ）・・・・・・・・</td> <td>処理方法 5.1.4 参照</td> </tr> <tr> <td>⑤ 膨れ（浮き）、割れ、剥がれ・・・・・</td> <td>処理方法 5.1.5 参照</td> </tr> <tr> <td>⑥ 既存内装仕上材の劣化・・・・・・・・</td> <td>処理方法 5.1.6 参照</td> </tr> <tr> <td>⑦ さび・・・・・・・・・・・・・・・・</td> <td>処理方法 5.1.7 参照</td> </tr> </table>	状況：	処理方法	① チリの有無・・・・・・・・・・・・・・・・	処理方法 5.1.1 参照	② 汚れ（ヤニ・アク・シミ・ほこり）・・	処理方法 5.1.2 参照	③ カビ・・・・・・・・・・・・・・・・	処理方法 5.1.3 参照	④ 摩耗（へこみ・えぐれ）・・・・・・・・	処理方法 5.1.4 参照	⑤ 膨れ（浮き）、割れ、剥がれ・・・・・	処理方法 5.1.5 参照	⑥ 既存内装仕上材の劣化・・・・・・・・	処理方法 5.1.6 参照	⑦ さび・・・・・・・・・・・・・・・・	処理方法 5.1.7 参照
状況：	処理方法																
① チリの有無・・・・・・・・・・・・・・・・	処理方法 5.1.1 参照																
② 汚れ（ヤニ・アク・シミ・ほこり）・・	処理方法 5.1.2 参照																
③ カビ・・・・・・・・・・・・・・・・	処理方法 5.1.3 参照																
④ 摩耗（へこみ・えぐれ）・・・・・・・・	処理方法 5.1.4 参照																
⑤ 膨れ（浮き）、割れ、剥がれ・・・・・	処理方法 5.1.5 参照																
⑥ 既存内装仕上材の劣化・・・・・・・・	処理方法 5.1.6 参照																
⑦ さび・・・・・・・・・・・・・・・・	処理方法 5.1.7 参照																
4. 適用可能な仕上材  (詳しくは製造業者に問い合わせること。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塗料</li> <li>・しっくい（既調合）（内装薄塗材 L・内装厚塗材 L<sup>※1</sup>）</li> <li>・けい藻土塗材（しっくい系）（内装薄塗材 L・内装厚塗材 L<sup>※1</sup>）</li> <li>・京壁・じゅらく・けい藻土塗材（内装薄塗材 E・L・W<sup>※2</sup>） （内装厚塗材 E・L<sup>※1</sup>・G）</li> <li>・せっこうプラスター（内装厚塗材 G）</li> <li>・塩ビ壁紙</li> </ul> <p>※1 ポリマーディスパージョンまたは再乳化形粉末樹脂を混合したもの          ※2 合成樹脂エマルジョンまたは再乳化形粉末樹脂を混合したもの。</p> <p>（注）塗料はアルカリ性の影響により不具合が生じる恐れがあるため、アルカリ性の仕上塗材を採用する際には製造所が指定する下地処理をおこなう。</p>																

#### 「塗料」の劣化状況および処理方法

##### 5.1.1 チリの有無

柱や巾木などを確認して、選定した仕上材を施工できるだけのチリの厚さの有無を確認し、十分な厚さが無い場合には施主または設計者に確認する。（特に、既存内装仕上材が塗料の場合はチリの厚さが十分で無い場合が多いため注意が必要となる。）

##### 5.1.2 汚れ（ヤニ・アク・シミ・ほこり）

汚れがほこりの付着のような軽微な場合は、乾拭きで清掃する。乾拭きで落ちない場合は、水または水で薄めた中性洗剤等を用いて清掃した後、選定した仕上材を施工する。

ヤニ・アクが付着している場合、水または水で薄めた中性洗剤等を用いて清掃する。ヤニ・アクの跡が目立つ場合は、「シミ止め用のシーラーまたは下塗材を塗付し、選定した仕上材を施工」または「塗膜の全面除去後、新設の施工と同様の方法で選定した仕上材の施工」を行う。

#### 5.1.3 カビ

カビの発生がある場合には、市販のカビ処理剤で処理し、選定した仕上材の製造業者が推奨するカビ止め用の専用シーラー等で処理を行い、選定した仕上材を施工する。

カビの発生が著しい場合、そのまま施工すると不具合が生じるおそれがあるため、全面もしくはカビが発生している部分を除去する。

#### 5.1.4 摩耗（へこみ・えぐれ）

塗料の場合は膜厚が薄く、摩耗（へこみ・えぐれ）が素地のせっこうボードにまで達していることが多い。改修用下地調整塗材で補修後、選定した仕上材を施工する。

#### 5.1.5 膨れ（浮き）、割れ、剥がれ

膨れ（浮き）・剥がれ部分は除去し、改修用下地調整塗材で補修後、選定した仕上材を施工する。

割れの場合は、既存内装仕上材のみの割れであれば、改修用下地調整塗材で補修後、選定した仕上材を施工する。構造上の割れであれば、下地の補修を行い、改修用下地調整塗材で補修後、選定した仕上材を施工する。

#### 5.1.6 既存内装仕上材の劣化

既存内装仕上材の表面強度や接着強度を確認し、強度低下が確認できる場合は、既存内装仕上材の除去を行う。

#### 5.1.7 さび

さびの発生部分の既存内装仕上材およびさびを除去した後、金属部分にさび止め塗料を塗付し、選定した仕上材を施工する。

## 5.2 既存内装仕上材が「しっくい（既調合）」の場合の改修方法

表 5.2 既存内装仕上材が「しっくい（既調合）」の場合の改修方法

1. 既存内装仕上材の種類	しっくい（既調合）
2. 既存内装仕上材の特徴	しっくいは下地によっては経年変化で剥がれ、浮き、割れが生じやすいので、下地への付着状況を確認すること。下地への付着が不十分な箇所は、除去すること。
3. 状況と処理方法	<p>状況： 処理方法</p> <p>① チリの有無・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 処理方法 5.2.1 参照</p> <p>② 汚れ（ヤニ・アク・シミ・ほこり）・・・・ 処理方法 5.2.2 参照</p> <p>③ カビ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 処理方法 5.2.3 参照</p> <p>④ 摩耗（へこみ・えぐれ）・・・・・・・・・・・・ 処理方法 5.2.4 参照</p> <p>⑤ 膨れ（浮き）、割れ、剥がれ・・・・・・・・・・ 処理方法 5.2.5 参照</p> <p>⑥ 既存内装仕上材の劣化・・・・・・・・・・・・ 処理方法 5.2.6 参照</p> <p>⑦ さび・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 処理方法 5.2.7 参照</p>
4. 適用可能な仕上材  （詳しくは製造業者に問い合わせること。）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塗料</li> <li>・しっくい（既調合）（内装薄塗材L、内装厚塗材L）</li> <li>・けい藻土塗材（しっくい系）（内装薄塗材L、内装厚塗材L）</li> <li>・繊維壁（内装薄塗材W※1）</li> <li>・京壁・じゅらく・けい藻土塗材（内装薄塗材E・L・W※1） （内装厚塗材E・L・G）（注1）</li> <li>・せっこうプラスター：（内装厚塗材G）</li> </ul> <p>※1 耐アルカリ性を有する内装薄塗材Wに限る。</p> <p>（注1）改修用の仕上塗材として厚塗材を採用する場合は、既存仕上材のしっくい（既調合）を除去することが多い。採用する場合は、改修に用いる仕上塗材の製造所に確認すること。</p>

### 「しっくい（既調合）」の劣化状況および処理方法

#### 5.2.1 チリの有無

柱や中木などを確認して、選定した仕上材を施工できるだけのチリの厚さの有無を確認し、十分な厚さが無い場合には施主または設計者に確認する。

#### 5.2.2 汚れ（ヤニ・アク・シミ・ほこり）

汚れがほこりの付着のような軽微な場合は、乾拭きで清掃する。乾拭きで落ちない場合は、水または水で薄めた中性洗剤等を用いて清掃した後、選定した仕上材を施工する。

ヤニ・アクが付着している場合、水または水で薄めた中性洗剤等を用いて清掃する。ヤニ・アクの跡が目立つ場合は、「シミ止め用のシーラーまたは下塗材を塗付し、選定した仕上材を施工」または「塗膜の全面除去後、新設の施工と同様の方法で選定した仕上材の施工」を行う。

#### 5.2.3 カビ

カビの発生がある場合には、市販のカビ処理剤で処理し、選定した仕上材の製造業者が推奨するカビ止め用の専用シーラー等で処理を行い、選定した仕上材を施工する。

カビの発生が著しい場合、そのまま施工すると不具合が生じるおそれがあるため、全面もしくはカビが発生している部分を除去する。

#### 5.2.4 摩耗（へこみ・えぐれ）

既存内装仕上材に摩耗（へこみ・えぐれ）がある場合は、改修用下地調整塗材で補修後、選定した仕上材を施工する。

#### 5.2.5 膨れ（浮き）、割れ、剥がれ

膨れ（浮き）・剥がれ部分は除去し、改修用下地調整塗材で補修後、選定した仕上材を施工する。

割れの場合は、既存内装仕上材のみの割れであれば、改修用下地調整塗材で補修後、選定した仕上材を施工する。構造上の割れであれば、下地の補修を行い、改修用下地調整塗材で補修後、選定した仕上材を施工する。

#### 5.2.6 既存内装仕上材の劣化

既存内装仕上材の表面強度や接着強度を確認し、強度低下が確認できる場合は、既存内装仕上材の除去を行う。

#### 5.2.7 さびの処理

さびの発生部分の既存内装仕上材およびさびを除去した後、金属部分にさび止め用塗料を塗付し、選定した仕上材を施工する。

### 5.3 既存内装仕上材が「繊維壁」の場合の改修方法

表 5.3 既存内装仕上材が「繊維壁」の場合の改修方法

1. 既存内装仕上材の種類	繊維壁																
2. 既存内装仕上材の特徴	仕上げは平滑であるが、骨材による表面の凹凸がある。CMC（カルボキシメチルセルロース）やMC（メチルセルロース）などの水溶性樹脂のみの場合が多く、強度面が弱い。																
3. 状況と処理方法	<table border="0"> <tr> <td>状況：</td> <td>処理方法</td> </tr> <tr> <td>① チリの有無・・・・・・・・・・・・・・・・</td> <td>処理方法 5.3.1 参照</td> </tr> <tr> <td>② 汚れ(ヤニ・アク・シミ・ほこり)・・・</td> <td>処理方法 5.3.2 参照</td> </tr> <tr> <td>③ カビ・・・・・・・・・・・・・・・・</td> <td>処理方法 5.3.3 参照</td> </tr> <tr> <td>④ 摩耗(へこみ・えぐれ)・・・・・・・・</td> <td>処理方法 5.3.4 参照</td> </tr> <tr> <td>⑤ 膨れ(浮き)、割れ、剥がれ・・・・・・・・</td> <td>処理方法 5.3.5 参照</td> </tr> <tr> <td>⑥ 既存内装仕上材の劣化・・・・・・・・</td> <td>処理方法 5.3.6 参照</td> </tr> <tr> <td>⑦ さび・・・・・・・・・・・・・・・・</td> <td>処理方法 5.3.7 参照</td> </tr> </table>	状況：	処理方法	① チリの有無・・・・・・・・・・・・・・・・	処理方法 5.3.1 参照	② 汚れ(ヤニ・アク・シミ・ほこり)・・・	処理方法 5.3.2 参照	③ カビ・・・・・・・・・・・・・・・・	処理方法 5.3.3 参照	④ 摩耗(へこみ・えぐれ)・・・・・・・・	処理方法 5.3.4 参照	⑤ 膨れ(浮き)、割れ、剥がれ・・・・・・・・	処理方法 5.3.5 参照	⑥ 既存内装仕上材の劣化・・・・・・・・	処理方法 5.3.6 参照	⑦ さび・・・・・・・・・・・・・・・・	処理方法 5.3.7 参照
状況：	処理方法																
① チリの有無・・・・・・・・・・・・・・・・	処理方法 5.3.1 参照																
② 汚れ(ヤニ・アク・シミ・ほこり)・・・	処理方法 5.3.2 参照																
③ カビ・・・・・・・・・・・・・・・・	処理方法 5.3.3 参照																
④ 摩耗(へこみ・えぐれ)・・・・・・・・	処理方法 5.3.4 参照																
⑤ 膨れ(浮き)、割れ、剥がれ・・・・・・・・	処理方法 5.3.5 参照																
⑥ 既存内装仕上材の劣化・・・・・・・・	処理方法 5.3.6 参照																
⑦ さび・・・・・・・・・・・・・・・・	処理方法 5.3.7 参照																
4. 適用可能な仕上材  (詳しくは製造業者に問い合わせること。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繊維壁（内装薄塗材W）</li> <li>・京壁・じゅらく・けい藻土塗材（内装薄塗材W）（注1）</li> </ul> <p>（注1）改修用の仕上塗材として繊維壁以外を採用する場合は、既存仕上材の繊維壁を除去することが多い。採用する場合は、改修に用いる仕上塗材の製造所に確認すること。</p>																

#### 「繊維壁」の劣化状況および処理方法

##### 5.3.1 チリの有無

柱や巾木などを確認して、選定した仕上材を施工できるだけのチリの厚さの有無を確認し、十分な厚さが無い場合には施主または設計者に確認する。

##### 5.3.2 汚れ（ヤニ・アク・シミ・ほこり）

汚れがほこりの付着のような軽微な場合は、乾拭きで清掃する。乾拭きで落ちない場合は、水または水で薄めた中性洗剤等を用いて清掃した後<sup>(注1)</sup>、選定した仕上材を施工する。

ヤニ・アクが付着している場合、水または水で薄めた中性洗剤等を用いて清掃する。ヤニ・アクの跡が目立つ場合は、「シミ止め用のシーラーまたは下塗材を塗付し、選定した仕上材を施工」または「塗膜の全面除去後、新設の施工と同様の方法で選定した仕上材の施工」を行う。

##### 5.3.3 カビ

カビの発生がある場合には、市販のカビ処理剤で処理し、選定した仕上材の製造業者が推奨するカビ止め用の専用シーラー等で処理を行い、選定した仕上材を施工する。

カビの発生が著しい場合、そのまま施工すると不具合が生じるおそれがあるため、全面もしくはカビが発生している部分を除去する。

##### 5.3.4 摩耗（へこみ・えぐれ）

既存内装仕上材に摩耗（へこみ・えぐれ）がある場合は、改修用下地調整塗材で補修後、選定した仕上材を施工する。

##### 5.3.5 膨れ（浮き）、割れ、剥がれ

膨れ（浮き）・剥がれ部分は除去し、改修用下地調整塗材で補修後、選定した仕上材を施工する。

割れの場合は、既存内装仕上材のみの割れであれば、改修用下地調整塗材で補修後、選定した仕上材を施工する。構造上の割れであれば、下地の補修を行い、改修用下地調整塗材で補修後、選定した仕上材を施工する。

#### 5.3.6 既存内装仕上材の劣化

既存内装仕上材の表面強度や接着強度を確認し、強度低下が確認できる場合は、既存内装仕上材の除去を行う。

#### 5.3.7 さび

さびの発生部分の既存内装仕上材およびさびを除去した後、金属部分にさび止め用塗料を塗付し、選定した仕上材を施工する。

(注 1) 水拭きもしくは水で薄めた中性洗剤などを用いて清掃する場合、多量の水を使用すると既存塗膜である繊維壁材が溶け出す恐れがあるため、きつく絞った布で清掃を行う。

#### 5.4 既存内装仕上材が水溶性樹脂系の「京壁・じゅらく・けい藻土塗材」(内装薄塗材W) の場合の改修方法

表 5.4 既存内装仕上材が水溶性樹脂系の「京壁・じゅらく・けい藻土塗材」(内装薄塗材W) の場合の改修方法

1. 既存内装仕上材の種類	水溶性樹脂系の京壁・じゅらく・けい藻土塗材 (内装薄塗材W)		
2. 既存内装仕上材の特徴	仕上げは平滑であるが、骨材による表面の凹凸がある。CMC (カルボキシメチルセルロース) やMC (メチルセルロース) などの水溶性樹脂のみの場合が多く、強度面での注意が必要である。 京壁(じゅらく壁)は、基本的に平滑な仕上りである。京壁(じゅらく壁)は、木粉を骨材として用いていることがあるためアルカリ成分には注意が必要である。 けい藻土塗材は、平滑な仕上げから模様仕上げまでいろいろな仕上げを行っている。		
3. 状況と処理方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <b>状況：</b>                      ① チリの有無・・・・・・・・・・・・・・・・・・                      ② 汚れ(ヤニ・アク・シミ・ほこり)・・・・                      ③ カビ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・                      ④ 摩耗(へこみ・えぐれ)・・・・・・・・・・・・                      ⑤ 膨れ(浮き)、割れ、剥がれ・・・・・・・・・・                      ⑥ 既存内装仕上材の劣化・・・・・・・・・・・・                      ⑦ さび・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・                 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <b>処理方法：</b>                      ・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.4.1 参照                      ・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.4.2 参照                      ・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.4.3 参照                      ・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.4.4 参照                      ・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.4.5 参照                      ・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.4.6 参照                      ・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.4.7 参照                 </td> </tr> </table>	<b>状況：</b> ① チリの有無・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ② 汚れ(ヤニ・アク・シミ・ほこり)・・・・ ③ カビ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ④ 摩耗(へこみ・えぐれ)・・・・・・・・・・・・ ⑤ 膨れ(浮き)、割れ、剥がれ・・・・・・・・・・ ⑥ 既存内装仕上材の劣化・・・・・・・・・・・・ ⑦ さび・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<b>処理方法：</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.4.1 参照 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.4.2 参照 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.4.3 参照 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.4.4 参照 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.4.5 参照 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.4.6 参照 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.4.7 参照
<b>状況：</b> ① チリの有無・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ② 汚れ(ヤニ・アク・シミ・ほこり)・・・・ ③ カビ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ④ 摩耗(へこみ・えぐれ)・・・・・・・・・・・・ ⑤ 膨れ(浮き)、割れ、剥がれ・・・・・・・・・・ ⑥ 既存内装仕上材の劣化・・・・・・・・・・・・ ⑦ さび・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<b>処理方法：</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.4.1 参照 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.4.2 参照 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.4.3 参照 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.4.4 参照 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.4.5 参照 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.4.6 参照 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.4.7 参照		
4. 適用可能な仕上材 (詳しくは製造業者に問い合わせること。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繊維壁 (内装薄塗材W)</li> <li>・京壁・じゅらく・けい藻土塗材 (内装薄塗材W)</li> </ul>		

#### 「内装薄塗材W」の劣化状況および処理方法

##### 5.4.1 チリの有無

柱や巾木などを確認して、選定した仕上材を施工できるだけのチリの厚さの有無を確認し、十分な厚さが無い場合には施主または設計者に確認する。

##### 5.4.2 汚れ (ヤニ・アク・シミ・ほこり)

汚れがほこりの付着のような軽微な場合は、乾拭きで清掃する。乾拭きで落ちない場合は、水または水で薄めた中性洗剤等を用いて清掃した後、選定した仕上材を施工する。

ヤニ・アクが付着している場合、水または水で薄めた中性洗剤等を用いて清掃する。ヤニ・アクの跡が目立つ場合は、「シミ止め用のシーラーまたは下塗材を塗付し、選定した仕上材を施工」または「塗膜の全面除去後、新設の施工と同様の方法で選定した仕上材の施工」を行う。

##### 5.4.3 カビ

カビの発生がある場合には、市販のカビ処理剤で処理し、選定した仕上材の製造業者が推奨するカビ止め用の専用シーラー等で処理を行い、選定した仕上材を施工する。

カビの発生が著しい場合、そのまま施工すると不具合が生じるおそれがあるため、全面もしくはカビが発生している部分を除去する。



#### 5.4.4 摩耗（へこみ・えぐれ）

既存内装仕上材に摩耗（へこみ・えぐれ）がある場合は、改修用下地調整塗材で補修後、選定した仕上材を施工する。

#### 5.4.5 膨れ（浮き）、割れ、剥がれ

膨れ（浮き）・剥がれ部分は除去し、改修用下地調整塗材で補修後、選定した仕上材を施工する。

割れの場合は、既存内装仕上材のみの割れであれば、改修用下地調整塗材で補修後、選定した仕上材を施工する。構造上の割れであれば、下地の補修を行い、改修用下地調整塗材で補修後、選定した仕上材を施工する。

#### 5.4.6 既存内装仕上材の劣化

既存内装仕上材の表面強度や接着強度を確認し、強度低下が確認できる場合は、既存内装仕上材の除去を行う。

#### 5.4.7 さび

さびの発生部分の既存内装仕上材およびさびを除去した後、金属部分にさび止め用塗料を塗付し、選定した仕上材を施工する。

5.5 既存内装仕上材が合成樹脂エマルジョン系の「京壁・じゅらく・けい藻土塗材」(内装薄(厚)塗材E)の場合の改修方法

表 5.5 既存内装仕上材が合成樹脂エマルジョン系の「京壁・じゅらく・けい藻土塗材」(内装薄(厚)塗材E)の場合の改修方法

1. 既存内装仕上材の種類	合成樹脂エマルジョン系の京壁・じゅらく・けい藻土塗材(内装薄(厚)塗材E)
2. 既存内装仕上材の特徴	仕上げは平滑であるが、骨材による表面の凹凸がある。けい藻土塗材は、平滑な仕上げから模様仕上げまでいろいろな仕上げを行っている。
3. 状況と処理方法	<p>状況： 処理方法：</p> <p>①チリの有無・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.5.1 参照</p> <p>②汚れ(ヤニ・アク・シミ・ほこり)・・・・処理方法 5.5.2 参照</p> <p>③カビ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.5.3 参照</p> <p>④摩耗(へこみ・えぐれ)・・・・・・・・・・処理方法 5.5.4 参照</p> <p>⑤膨れ(浮き)、割れ、剥がれ・・・・・・処理方法 5.5.5 参照</p> <p>⑥既存内装仕上材の劣化・・・・・・・・・・処理方法 5.5.6 参照</p> <p>⑦さび・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.5.7 参照</p> <p>⑧既存内装仕上材の材質・・・・・・・・・・処理方法 5.5.8 参照</p>
4. 適用可能な仕上材  (詳しくは製造業者に問い合わせること。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塗料</li> <li>・しゅくい(既調合)(内装薄塗材L)</li> <li>・けい藻土塗材(しゅくい系)(内装薄塗材L)</li> <li>・繊維壁(内装薄塗材W)</li> <li>・京壁・じゅらく・けい藻土塗材(内装薄塗材W・E)</li> </ul>

「内装薄塗材E」の劣化状況および処理方法

5.5.1 チリの有無

柱や巾木などを確認して、選定した仕上材を施工できるだけのチリの厚さの有無を確認し、十分な厚さが無い場合には施主または設計者に確認する。

5.5.2 汚れ(ヤニ・アク・シミ・ほこり)

汚れがほこりの付着のような軽微な場合は、乾拭きで清掃する。乾拭きで落ちない場合は、水または水で薄めた中性洗剤等を用いて清掃した後、選定した仕上材を施工する。

ヤニ・アクが付着している場合、水または水で薄めた中性洗剤等を用いて清掃する。ヤニ・アクの跡が目立つ場合は、「シミ止め用のシーラーまたは下塗材を塗付し、選定した仕上材を施工」または「塗膜の全面除去後、新設の施工と同様の方法で選定した仕上材の施工」を行う。

5.5.3 カビ

カビの発生がある場合には、市販のカビ処理剤で処理し、選定した仕上材の製造業者が推奨するカビ止め用の専用シーラー等で処理を行い、選定した仕上材を施工する。

カビの発生が著しい場合、そのまま施工すると不具合が生じるおそれがあるため、全面もしくはカビが発生している部分を除去する。

5.5.4 摩耗(へこみ・えぐれ)

既存内装仕上材に摩耗(へこみ・えぐれ)がある場合は、改修用下地調整塗材で補修後、選定した仕上材を施工する。

#### 5.5.5 膨れ（浮き）、割れ、剥がれ

膨れ（浮き）・剥がれ部分は除去し、改修用下地調整塗材で補修後、選定した仕上材を施工する。

割れの場合は、既存内装仕上材のみの割れであれば、改修用下地調整塗材で補修後、選定した仕上材を施工する。構造上の割れであれば、下地の補修を行い、改修用下地調整塗材で補修後、選定した仕上材を施工する。

#### 5.5.6 既存内装仕上材の劣化

既存内装仕上材の表面強度や接着強度を確認し、強度低下が確認できる場合は、既存内装仕上材の除去を行う。

#### 5.5.7 さび

さびの発生部分の既存内装仕上材およびさびを除去した後、金属部分にさび止め用塗料を塗付し、選定した仕上材を施工する。

#### 5.5.8 既存内装仕上材の材質

既存内装仕上材にアルカリ性などにより変色するもの（木粉など）を含んでいる場合は、改修用仕上材としてしっくいなどのアルカリ材料を使用すると不具合が生じる恐れがあるため、既存内装仕上材を除去することが多い。専用の下塗材を用いて既存内装仕上材の上にしっくいなどのアルカリ材料を施工する工法もあるが、採用する際には製造業者に詳細を問い合わせること。

5.6 既存内装仕上材がセメント系の「京壁・じゅらく壁・けい藻土塗材」（内装薄（厚）塗材C）の場合の改修方法

表 5.6 既存内装仕上材がセメント系の「京壁・じゅらく壁・けい藻土塗材」（内装薄（厚）塗材C）の場合の改修方法

1. 既存内装仕上材の種類	セメント系の京壁・じゅらく壁・けい藻土塗材(内装薄（厚）塗材C)																		
2. 既存内装仕上材の特徴	セメントを用いているため既存仕上材の耐久性は高い傾向にある。平滑な仕上や模様仕上げ等、様々な仕上模様がある。																		
3. 状況と処理方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">状況：</td> <td style="width: 50%;">処理方法：</td> </tr> <tr> <td>①チリの有無・・・・・・・・・・・・・・・・</td> <td>処理方法 5.6.1 参照</td> </tr> <tr> <td>②汚れ(ヤニ・アク・シミ・ほこり)・・・</td> <td>処理方法 5.6.2 参照</td> </tr> <tr> <td>③カビ・・・・・・・・・・・・・・・・</td> <td>処理方法 5.6.3 参照</td> </tr> <tr> <td>④摩耗(へこみ・えぐれ)・・・・・・・・</td> <td>処理方法 5.6.4 参照</td> </tr> <tr> <td>⑤膨れ(浮き)、割れ、剥がれ・・・・・・・・</td> <td>処理方法 5.6.5 参照</td> </tr> <tr> <td>⑥既存内装仕上材の劣化・・・・・・・・</td> <td>処理方法 5.6.6 参照</td> </tr> <tr> <td>⑦さび・・・・・・・・・・・・・・・・</td> <td>処理方法 5.6.7 参照</td> </tr> <tr> <td>⑧既存内装仕上材の材質・・・・・・・・</td> <td>処理方法 5.6.8 参照</td> </tr> </table>	状況：	処理方法：	①チリの有無・・・・・・・・・・・・・・・・	処理方法 5.6.1 参照	②汚れ(ヤニ・アク・シミ・ほこり)・・・	処理方法 5.6.2 参照	③カビ・・・・・・・・・・・・・・・・	処理方法 5.6.3 参照	④摩耗(へこみ・えぐれ)・・・・・・・・	処理方法 5.6.4 参照	⑤膨れ(浮き)、割れ、剥がれ・・・・・・・・	処理方法 5.6.5 参照	⑥既存内装仕上材の劣化・・・・・・・・	処理方法 5.6.6 参照	⑦さび・・・・・・・・・・・・・・・・	処理方法 5.6.7 参照	⑧既存内装仕上材の材質・・・・・・・・	処理方法 5.6.8 参照
状況：	処理方法：																		
①チリの有無・・・・・・・・・・・・・・・・	処理方法 5.6.1 参照																		
②汚れ(ヤニ・アク・シミ・ほこり)・・・	処理方法 5.6.2 参照																		
③カビ・・・・・・・・・・・・・・・・	処理方法 5.6.3 参照																		
④摩耗(へこみ・えぐれ)・・・・・・・・	処理方法 5.6.4 参照																		
⑤膨れ(浮き)、割れ、剥がれ・・・・・・・・	処理方法 5.6.5 参照																		
⑥既存内装仕上材の劣化・・・・・・・・	処理方法 5.6.6 参照																		
⑦さび・・・・・・・・・・・・・・・・	処理方法 5.6.7 参照																		
⑧既存内装仕上材の材質・・・・・・・・	処理方法 5.6.8 参照																		
4. 適用可能な仕上材  (詳しくは製造業者に問い合わせること。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塗料</li> <li>・しっくい（既調合）（内装薄塗材L）</li> <li>・けい藻土塗材（しっくい系）（内装薄塗材L）</li> <li>・繊維壁（内装薄塗材W）</li> <li>・京壁，じゅらく壁，けい藻土塗材（内装薄塗W・E・C）</li> <li>・塩ビ壁紙</li> </ul> <p>※耐アルカリ性を有する仕上材であれば、選定できることが多い。</p>																		

「京壁・じゅらく壁・けい藻土塗材（内装薄（厚）塗材C）」の劣化状況および処理方法

5.6.1 チリの有無

柱や巾木などを確認して、選定した仕上材を施工できるだけのチリの厚さの有無を確認し、十分な厚さが無い場合には施主または設計者に確認する。

5.6.2 汚れ（ヤニ・アク等、ほこり）

汚れがほこりの付着のような軽微な場合は、乾拭きで清掃する。乾拭きで落ちない場合は、水または水で薄めた中性洗剤等を用いて清掃した後、選定した仕上材を施工する。

ヤニ・アクが付着している場合、水または水で薄めた中性洗剤等を用いて清掃する。ヤニ・アクの跡が目立つ場合は、「シミ止め用のシーラーまたは下塗材を塗付し、選定した仕上材を施工」または「塗膜の全面除去後、新設の施工と同様の方法で選定した仕上材の施工」を行う。

### 5.6.3 カビ

カビの発生がある場合には、市販のカビ処理剤で処理し、選定した仕上材の製造業者が推奨するカビ止め用の専用シーラー等で処理を行い、選定した仕上材を施工する。  
カビの発生が著しい場合、そのまま施工すると不具合が生じるおそれがあるため、全面もしくはカビが発生している部分を除去する。

### 5.6.4 摩耗（へこみ・えぐれ）

既存内装仕上材に摩耗（へこみ・えぐれ）がある場合は、改修用下地調整塗材で改修後、選定した仕上材を施工する。

### 5.6.5 膨れ（浮き）、割れ、剥がれ

膨れ（浮き）・剥がれ部分は除去し、改修用下地調整塗材で改修後、選定した仕上材を施工する。  
割れの場合は、既存内装仕上材のみの割れであれば、改修用下地調整塗材で改修後、選定した仕上材を施工する。構造上の割れであれば、下地の補修を行い、改修用下地調整塗材で改修後、選定した仕上材を施工する。

### 5.6.6 既存内装仕上材の劣化

既存内装仕上材の表面強度や接着強度を確認し、強度低下が確認できる場合は、既存内装仕上材の除去を行う。

### 5.6.7 さび

さびの発生部分の既存内装仕上材およびさびを除去した後、金属部分にさび止め用の専用シーラーを塗付し、選定した仕上材を施工する。

### 5.6.8 既存内装仕上材の材質

既存内装仕上材にセメントが含まれているため、アルカリなどにより変色する材料を改修用仕上材として使用すると不具合が生じる恐れがあるため、既存内装仕上材を除去することが多い。専用の下塗材を用いて既存内装仕上材の上にアルカリなどにより変色する材料を施工する工法もあるが、採用する際には製造業者に詳細を問い合わせること。

## 5.7 既存内装仕上材が「せっこうプラスター」の場合の改修方法

表 5.7 既存内装仕上材が「せっこうプラスター」の場合の改修方法

1. 既存内装仕上材の種類	せっこうプラスター
2. 既存内装仕上材の特徴	仕上げは平滑または模様付けしてあり、骨材による表面の凹凸がある。吸水が激しい。
3. 状況と処理方法	<p>状況：            ① チリの有無・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.5.1 参照            ② 汚れ(ヤニ・アク・シミ・ほこり)・・・・処理方法 5.5.2 参照            ③ カビ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.5.3 参照            ④ 摩耗(へこみ・えぐれ)・・・・・・・・・・処理方法 5.5.4 参照            ⑤ 膨れ(浮き)、割れ、剥がれ・・・・・・処理方法 5.5.5 参照            ⑥ 既存内装仕上材の劣化・・・・・・・・・・処理方法 5.5.6 参照            ⑦ さび・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.5.7 参照</p> <p>処理方法：</p>
4. 適用可能な仕上材  (詳しくは製造業者に問い合わせること。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塗料</li> <li>・しっくい(既調合)(内装薄塗材L、内装厚塗材L)</li> <li>・けい藻土塗材(内装薄塗材L、内装厚塗材L)</li> <li>・繊維壁(内装薄塗材W)</li> <li>・京壁・じゅらく・けい藻土塗材(内装薄塗材E・L・W) (内装厚塗材E・L・G)</li> <li>・せっこうプラスター(内装厚塗材G)</li> </ul>

### 「せっこうプラスター」の劣化状況および処理方法

#### 5.7.1 チリの有無

柱や巾木などを確認して、選定した仕上材を施工できるだけのチリの厚さの有無を確認し、十分な厚さが無い場合には施主または設計者に確認する。

#### 5.7.2 汚れ(ヤニ・アク・シミ・ほこり)

汚れがほこりの付着のような軽微な場合は、乾拭きで清掃する。乾拭きで落ちない場合は、水または水で薄めた中性洗剤等を用いて清掃した後、選定した仕上材を施工する。

ヤニ・アクが付着している場合、水または水で薄めた中性洗剤等を用いて清掃する。ヤニ・アクの跡が目立つ場合は、「シミ止め用のシーラーまたは下塗材を塗付し、選定した仕上材を施工」または「塗膜の全面除去後、新設の施工と同様の方法で選定した仕上材の施工」を行う。

#### 5.7.3 カビ

カビの発生がある場合には、市販のカビ処理剤で処理し、選定した仕上材の製造業者が推奨するカビ止め用の専用シーラー等で処理を行い、選定した仕上材を施工する。

カビの発生が著しい場合、そのまま施工すると不具合が生じるおそれがあるため、全面もしくはカビが発生している部分を除去する。

#### 5.7.4 摩耗(へこみ・えぐれ)

既存内装仕上材に摩耗(へこみ・えぐれ)がある場合は、改修用下地調整塗材で補修後、選定した仕上材を施工する。

#### 5.7.5 膨れ（浮き）、割れ、剥がれ

膨れ（浮き）・剥がれ部分は除去し、改修用下地調整塗材で補修後、選定した仕上材を施工する。

割れの場合は、既存内装仕上材のみの割れであれば、改修用下地調整塗材で補修後、選定した仕上材を施工する。構造上の割れであれば、下地の補修を行い、改修用下地調整塗材で補修後、選定した仕上材を施工する。

#### 5.7.6 既存内装仕上材の劣化

既存内装仕上材の表面強度や接着強度を確認し、強度低下が確認できる場合は、既存内装仕上材の除去を行う。

#### 5.7.7 さび

さびの発生部分の既存内装仕上材およびさびを除去した後、金属部分にさび止め用塗料を塗付し、選定した仕上材を施工する。

## 5.8 既存内装仕上材が「塩ビ壁紙」の場合の改修方法

表 5.8 既存内装仕上材が「塩ビ壁紙」の場合の改修方法

1. 既存内装仕上材の 種類	塩ビ壁紙
2. 既存内装仕上材の 特徴	薄い塗膜層でありチリがほとんど無い。もしくは、塗膜層を除去してもチリが確保できない場合がある。 塩ビ壁紙を除去すると石膏ボードの取付状態によっては、石膏ボードの板間等に動きが生じ改修用仕上材にひび割れが発生する可能性がある。 撥水加工や低汚染性の壁紙の場合、改修用仕上材の密着性を阻害するため不具合が発生する可能性がある。
3. 状況と処理方法	状況： ① チリの有無・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.8.1 参照 ② 汚れ(ヤニ・アク・シミ)・・・・・・・・・・処理方法 5.8.2 参照 ③ カビ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.8.3 参照 ④ 摩耗(へこみ、えぐれ)・・・・・・・・・・処理方法 5.8.4 参照 ⑤ 膨れ(浮き)、割れ、剥がれ・・・・・・・・・・処理方法 5.8.5 参照 ⑥ 既存内装仕上材の劣化・・・・・・・・・・処理方法 5.8.6 参照 ⑦ さび・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・処理方法 5.8.7 参照 処理方法：
4. 適用可能な仕上材  (詳しくは製造業 者に問い合わせる こと。)	・塗料 ・京壁・じゅらく・けい藻土塗材(内装薄塗材E・L <sup>*1</sup> ・W <sup>*2</sup> ) ・せっこうプラスター  ※1 ポリマーディスパージョンまたは再乳化樹脂を混合したもの。 ※2 合成樹脂エマルジョンまたは再乳化形粉末樹脂を混合したもの。

注意点) 紙壁紙、繊維壁紙等は、壁紙表層から塗膜が剥離する可能性があり対象外とする。

### 「壁紙」の下地処理の方法

#### 5.8.1 チリの有無

柱や巾木などを確認して、選定した仕上材を施工できるだけのチリの厚さの有無を確認し、十分な厚さが無い場合には施主または設計者に確認する。(特に、既存内装仕上材が壁紙の場合は、壁紙を除去してもチリの厚さが十分で無い場合が多いため注意が必要となる。)

#### 5.8.2 汚れ(ヤニ・アク・シミ・ほこり)

汚れがほこりの付着のような軽微な場合は、乾拭きで清掃する。落ちない場合は、水拭きもしくは水で薄めた中性洗剤などを用いて清掃した後、選定した仕上材を施工する。

ヤニ・アクが付着している場合、水拭きもしくは水で薄めた中性洗剤などを用いて清掃する。

汚れが著しい場合は、既存壁紙を除去する。(既存壁紙を除去した場合は5.8.8を参照)

#### 5.8.3 カビ

カビの発生がある場合には、市販のカビ処理剤で処理し、選定した仕上材の製造業者が推奨するカビ止め用の専用シーラー等で処理を行い、選定した仕上材を施工する。

カビの発生が著しい場合、そのまま施工すると不具合が生じるおそれがあるため、全面もしくはカビが発生している部分を除去する。(既存壁紙を除去した場合は5.8.8を参照)



#### 5.8.4 摩耗（へこみ・えぐれ）

軽微な場合は、下地調整材あるいはパテで予め充填しておく。

著しい場合は既存壁紙を除去する。（既存壁紙を除去した場合は 5.8.8 を参照）

#### 5.8.5 膨れ（浮き）、割れ、剥がれ

壁紙に強度が無い場合は、既存壁紙を除去する。（既存壁紙を除去した場合は 5.8.8 を参照）

- ・膨れ（浮き）・剥がれの処理

膨れている部分に切り込みを入れて市販の専用接着剤で貼り付けて補修する。

著しい場合は既存壁紙を除去する。（既存壁紙を除去した場合は 5.8.8 を参照）

- ・割れの処理

専用接着剤で貼り付けて補修する。

著しい場合は既存壁紙を除去する。（既存壁紙を除去した場合は 5.8.8 を参照）

- ・接着不良（目開き・浮き）

専用接着剤で貼り付けて補修する。

著しい場合は既存壁紙を除去する。（既存壁紙を除去した場合は 5.8.8 を参照）

#### 5.8.6 既存内装仕上材の劣化

エマルジョンパテで埋める。

著しい場合は既存壁紙を除去する。（既存壁紙を除去した場合は 5.8.8 を参照）

#### 5.8.7 さび

さびの発生部分の既存内装仕上材およびさびを除去した後、金属部分にさび止め用の専用シーラーを塗付し、選定した仕上材を施工する。

#### 5.8.8 既存壁紙を除去した場合

糊が残った場合は、お湯もしくは水拭きで除去する。

拭き取り後は十分に乾燥させる。



Ä

¥ ¨		p - n	š € Á h « Ä				
			œ·	y ' „	t 1 g	W" 2 [ U / * } >	, É Á _ Ä
¶ ° Ä Š [ U t Š	o \ œ¶ ° Ä Š [ Ut Š	o \ œ¶ ° t Š	W & t	V t Š	3 Æ 5	i u >	HTN8Fo \ Ä, 2ÿo \
	fi % t œ¶ ° Ä Š [ Ut Š	fi % t œ¶ ° t Š	% w Y œ	j - W Š	mm ¨ {	z " 5 >	
³ y [ U t Š °	J OKTALRFŠ³ y [ Ut Š	³ y t Š CE	a ² j - v ² œ	V t Š Ä WŠ j - Ut Š		d c > Ä / ž - > Ä ^ ¾ > Ä z " 5 >	ALRFŠo \ B8P
	l & ° } J OKTALRFŠ³ y [ Ut Š	l & ° } ³ y t Š CE					ALRFŠo \ B8PÁ l & ° } Ä ~   f Ä < µ } Ä
	¼ " } J OKTALRFŠ³ y [ Ut Š ⁴)	¼ " } ³ y t Š CE					
	l ' ' ' §³ y [ Ut Š	³ y t Š Si					> O: B8P
	m, ' - 9KP > MRŠ³ y [ Ut Š	³ y t Š E					6 < OPB8P
	¼ " } m, ' - 9KP > MRŠ³ y [ Ut Š ⁴)	¼ " } ³ y t Š E					CRA8B8PÁ³ y   f Ä
	k, ¢ e } m, ' - 9KP > MRŠ³ y [ Ut Š	³ y t Š RE					" §9J ; > B8P
	¼ " } k, ¢ e } m, ' - 9KP > MRŠ³ y [ Ut Š ⁴)	¼ " } ³ y t Š RE					
¼ " } m, ' - - - §³ y [ Ut Š ⁴)	¼ " } ³ y t Š RS						
l & ° } t` œ [ U t Š °	l & ° } m, ' - 9KP > MRŠ t` œ [ Ut Š	l & ° } t` t Š E	v ² œ	WŠ j - Ut Š	0.5 Æ 1 mm ¨ {	d c > Ä / ž - > Ä z " 5 >	
	l & ° } k, ¢ e } m, ' - 9KP > MRŠ t` œ [ Ut Š	l & ° } t` t Š RE					
	l & ° } J OKTALRFŠ t` œ [ Ut Š	l & ° } t` t Š CE					

1 ALRFŠ & + Ä " mŠ & t %ALRF i + fi 3) ALRF -q œJ OKTE 7@HT? MR4 -ml " [ Ut Š 4 ' ° ~

2 l ' ' ' § & + Ä " mŠ & t %l ' ' ' " mŠ i + fi 3) m, ' - 9KP > MR4 -ml " [ Ut Š 4 ' ° ~

3 m, ' - 9KP > MRŠ & + Ä " mŠ & t %m, ' - 9KP > MR4 ^ œl " [ Ut Š 4 ' ° ~

4 m, ' - - - § & + Ä " mŠ & t %m, ' - \* - - 4 ^ œl " [ Ut Š 4 ' ° ~

5 " ~ f' - § & + Ä " mŠ & t %" ~ f' - i + fi 3) m, ' - 9KP > MR4 -ml " [ Ut Š 4 ' ° ~

6 JOKTALRFŠ & + Ä " mŠ & t %ALRF j - fi 3) ALRF -q œJ OKTE 7@HT? MR i + b X e } ; % - 4 -ml " [ Ut Š 4 ' ° ~

7 k, ¢ e } m, ' - 9KP > MRŠ & + Ä " mŠ & t %9J ; > § ( ' \* ^ œ t ) k, ¢ e f l ! 2 m, ' - 9KP > MR4 ^ œl " [ Ut Š 4 ' ° ~

8 a ² · ÿ™ S G Q K 8 F I N @ B T Š & + Ä " mŠ & t % · ÿ™ j - Ä i + G Q K 8 F I N @ B T Ä i + fi 3) J O K T E 7 @ H T ? M R @ t ` + b X e } ; % - 4 -ml " [ Ut Š 4 ' ° ~

9 ! \$ fi ° § & + Ä " mŠ & t % ! \$ fi ° 4 ^ œl " [ Ut Š 4 ' ° ~